【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年10月20日(2005.10.20)

【公開番号】特開2004-199192(P2004-199192A)
【公開日】平成16年7月15日(2004.7.15)
【年通号数】公開・登録公報2004-027
【出願番号】特願2002-364303(P2002-364303)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０７Ｄ　1/00
　Ａ６３Ｆ　5/04
　Ｇ０７Ｄ　9/00
// Ａ６３Ｆ　9/00
【ＦＩ】
　Ｇ０７Ｄ　1/00　　Ａ
　Ａ６３Ｆ　5/04　５１２Ｍ
　Ｇ０７Ｄ　9/00　４１８Ｚ
　Ａ６３Ｆ　9/00　５１２Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成17年6月16日(2005.6.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ディスク(D)を一列に並べて誘導するガイド通路(220)と、
前記ガイド通路(220)の延長上において前記ガイド通路の中心線(CL)から外れた位置に配置され、かつ、ガイド通路(220)に向けて付勢される接触体(261)と、前記ガイド通路(220)の延長上、かつ、前記中心線(CL)に対し前記接触体(261)の反対側において選択的に位置される偏向体(231)を含んでおり、
前記偏向体(231)は、ガイド通路(220)の中心線(CL)からずれた位置において、軸(247)周りに回動可能なレバー(248)に取り付けられていることを特徴とするディスクの振分装置。
【請求項２】
前記レバー(248)が前記ガイド通路(220)とほぼ並列する第1レバー(249)及び前記第1レバー(249)の上部から前記ガイド通路(220)と直交方向に伸びる第2レバー(250)とを有する倒立L形であって、第1レバー(249)よりもガイド通路(220)から離れた第2レバー(250)において前記軸(247)にピボット運動可能に支持され、前記第1レバー(249)の前記軸(247)よりもガイド通路(220)に近い位置に前記偏向体(231)が取り付けられ、前記第2レバー(250)の軸(247)よりも前記ガイド通路(220)から離れた位置にアクチュエータ(242)の移動体(243)を取り付けたことを特徴とする請求項１のディスクの振分装置。
【請求項３】
前記偏向体(231)が支軸(233)に回転自在なローラ(235)であることを特徴とする請求項１または２のディスクの振分装置。
【請求項４】
前記支軸(233)の拡大部(236)がストッパ(234)であることを特徴とする請求項3のディスクの振分装置。

【請求項５】
前記第1レバー(249)の前記偏向体(231)の取付部よりも端部が位置センサー(225)の作用片(227)である請求項４のディスクの振分装置。
【請求項６】
前記接触体(261)が支持軸(262)に回転自在なローラ(263)と、前記支持軸(262)の両端部に作用するバイアス装置(270)とを含むことを特徴とする請求項１または２のディスクの振分装置。
【請求項７】
接触体(261)に近いガイドプレート(222A)の先端(222D)の位置が、他方のガイドプレート(222B)の先端(222C)の位置と異なることを特徴とする請求項１または２のディスクの振分装置。
【請求項８】
ガイド通路(220)により案内されるディスク(D)が、ガイドプレート(222A、222B)、偏向体(231)及び接触体(261)と接触したとき、接触体(261)はディスク(D)の最大直径部よりも接触体(261)側においてディスク(D)と接触するよう配置されることを特徴とする請求項１または２のディスクの振分装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
【課題を解決するための手段】
この目的を達成するため、本発明は以下のように構成されている。
ディスクを一列に並べて誘導するガイド通路と、前記ガイド通路の延長上において前記ガイド通路の中心線から外れた位置に配置され、かつ、ガイド通路に向けて付勢される接触体と、前記ガイド通路の延長上、かつ、前記中心線に対し前記接触体の反対側において選択的に位置される偏向体を含んでおり、前記偏向体は、ガイド通路の中心線からずれた位置において、軸周りに回動可能なレバーに取り付けられていることを特徴とするものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
さらに、偏向体が、ガイド通路の中心線の延長からずれた位置において、軸周りに回動可能なレバーに取り付けられているので、前記軸はディスクから直交方向に力を受け、かつ、前記レバーはその軸線に沿った圧縮力を受けるので無理な力が加わらないので移動がスムーズであり、耐久性が向上する。
さらにまた、ディスクの通路が並行して配置されないので、振分装置の厚みを薄く出来る。